第５回「神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議」議事要旨

【日　時】　平成 25 年 11 月 18 日（月）　16：00～17：45
【場　所】　県出雲合同庁舎　7 階　702・703 会議室
【出席者】　第５回調整会議出席者名簿のとおり
【傍聴者】　25 名

【議事内容】
（１）**前回議事内容の確認**・・・事務局説明（参考－１）

（２）**前回からの動き**・・・事務局説明(参考－２)、出雲河川説明（参考－３）
　１）中国電力(株)による神戸川再生推進会議への説明会の実施状況（参考－２）
　・9月18日、10月18日の２回、県が主催する形で開催。
　・第２回調整会議で出された質問や追加質問等に対して、文書回答。今後も引き続き説明会を開催。

　２）「志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会」の状況（参考－３）
　・9月17日に第７回モニタリング委員会を開催。
　・昨年７月から１年間実施した「黒っぽい水」、「黒い付着物」の調査結果、H23,24のアオコの発生要因についての調査結果等について審議。
　・「黒っぽい水」の現象・要因は、水質調査結果からは確認できなかった。「黒い付着物」については、ﾏﾝｶﾞﾝ由来。ｱｵｺの発生原因は、引き続き、検討が必要などの結果。

（国土交通省説明に対する質疑応答）
Ｑ．（県）
①「黒っぽい水」については、以前一部には、「硫化鉄」ではないかとの見解もあったが、その点は如何か。
②「黒っぽい石」の原因と思われるマンガンの発生由来がどういったところにあるのかということが審議されたのかどうか。
③「黒っぽい水」や「アオコ」に関して、対策についての議論がなかったか。
Ａ．（出雲河川）
①「黒っぽい水」の原因は有機物系なのか、鉱物系なのか調べたが顕著なデータはでなかった。「黒っぽい石」については、硫化鉄等の説もあったが、マンガンが原因と結論付けられた。

②志津見ダム上流の八神より上流というところまでで、箇所特定までには至っていない。

③「黒っぽい水」については、地元の方が確認された時に採水し分析することについて「志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会」より意見を頂いている。

④「アオコ」については、毎年発生しているという状況ではなく、引き続き検討し、必要に応じて対策を検討する方針。

Ｑ．（飯南町長）

①現時点で、マンガンが生態系等に及ぼす影響や懸念されることがあるのか。

Ａ．（出雲河川）

①アユの食べるコケに影響を与えているものや、問題無いものもある。今後も原因究明が必要であり、状況によっては、対策も必要となるかも知れない。

（３）水利使用更新等に関する中国電力からの再提案・・・事務局説明（資料－１）、中国電力説明（中国電力資料）

１）前回委員会での中国電力からの提案内容と、これまでの調整会議での論点等について、説明（資料－１）

２）中国電力（株）からの再提案（中国電力資料）

①来島ダムからの試験放流の検証

・５ヶ月間にわたり実施してきた試験放流（２㎥／s）により、下流の各地点において、一定の流況改善効果があったものと認識。

②水質調査および水質保全対策（検証体制）

・来島ダム池におけるＤＯ，ＣＯＤ、栄養塩類、マンガン等の調査結果から、貯水池内の水質について、鉄・マンガンの溶出、アオコの発生等について、原因究明や水質保全対策を検討する組織を設置し、評価・対策・検証を行う。

・検討組織については、河川、ダム水質および生物に精通した学識経験者、調査・対策実施者としての中国電力関係者で構成。オブザーバーとして、研究機関を加え、河川管理者や関係自治体にも参加要請。

③来島ダムからの増放流計画

・前回提案について、調整会議や地元関係者の意見を踏まえ、アユの遡上や降下を最大限考慮したものに見直し。これにより、八神、菅田、馬木の各地点とも流量が少ない時期に安定した流量を維持するとともに、ほぼ通年にわたり安定した流量を確保することができると考えている。

・かんがい期、アユ期（遡上・降下時期）（3～11月）…２㎥／s

・水利用が少なく、水量が比較的豊富な時期（12月～2月）…１～２㎥／s

④減水区間対策

・来島ダムからの放流量を、発電取水堰から減水区間へ放流する。

・八幡原取水堰に加え、窪田取水堰魚道を改修。

・その他の堰（明谷堰、川崎堰）の改修については、堰の管理者（出雲市）と協議し、利水者としての応分な協力を行う。

⑤水利使用期間

・適正な放流量を検討するためには、来島ダムからの放流を増量し、長期にわたり様々な気象条件のもとで、水質や生物などの調査データを継続的に採取し、増放流の効果を検証していく必要がある。

・このため、水利使用期間は、「20 年」とする。ただし、毎年、モニタリング結果を報告するとともに、中間年に調査・検証結果をとりまとめ、流域自治体や地域の方々に報告の上、意見を伺い、放流期間の見直しも含めて改善策を検討。

３）中国電力（株）からの提案に関する「質疑応答」

Q.（出雲市長）

＜全般＞

・前回の提案と大きな違いはなく、発電優先の提案であり、長年にわたる流域住民の思いを受け止め、最大限の努力をしていただくということが感じ取れず、期待はずれ。

＜①増放流量＞

・通年最大限放流というのをしっかり検討したのかどうか。２m^3/ｓ放流期間を伸ばすということだが、通年で、できないのはなぜか。

＜②ダム湖対策＞

・ダムの水質保全対策については、しっかり事前の調査や検討をした上でということだが、一日でも早く実施されたい。いつまでに何をするかという具体的な実施スケジュールをしっかりと示してもらいたい。そのために、検討会は大至急立ち上げて、調整会議に中間的な報告等をしていただき、具体的な対策を講じていただきたい。

＜③減水区間対策＞

・減水区間の市が管理する「２つの堰」については、応分の負担ではなく、中電のほうで負担して必要なものはやるということをいっていただきたい。

＜④水利使用期間＞

・水利使用期間の20年は長すぎる。前回の話とあまり変わっていない。検証のために期間が必要とのことだが、検証はもっと前倒し、圧縮できるのではないか。しっかりと短縮という方向を打ち出してほしい。

Ｑ．（飯南町長）

＜①増放流量＞

・住民意見からも、現状は、水が少ないと感じている。データからみても12月から２月は明らかに水が少ない。特に八神については、来島ダムの放流量で河川の流量が決まってくる面があり、冬季においてもできるだけ多くの水を流してもらいたい。

＜②ダム湖対策＞

・来島ダム貯水池の水質対策については、飯南町はダム直下流であり、影響を直接受けるため、具体的な対策をできるだけ早く実施していただきたい。

＜④水利使用期間＞

・水利使用20年が長すぎるということは理解するが、一方で安定的な発電ということをどう考えればよいか。できるだけ知恵を出してみながら歩みよることも必要。10年で検証をして対策を考えるとなると、20年はすぐ。検証期間が工夫できないものか。

Ａ．（中国電力）

＜①増放流量＞

・放流量に関する再提案については、水量が比較豊富な時期は、ある程度貯水し、渇水に備えるという点と、漁協等への聞き取りを踏まえ、アユの遡上や降下の時期を最大限考慮したもの。ご意見を踏まえ、再検討する。

＜②ダム湖対策＞

・来島ダム湖の水質改善対策について検討する組織はできるだけ早く立ち上げる。調整会議メンバーのご意見を伺いながら、できるだけ早く検討を進めたい。

＜③減水区間対策＞

・管理者が中国電力以外のその他の堰については、対策の必要性について専門機関や漁協に意見を伺った上で、必要な場合は、事業主体や負担について管理者と協議をこれから進める。

＜④使用期間＞

・水利使用期間「20年」については、検証期間だけではなく、平成20年に出された国の通達で「30年から20年」に見直されたばかりの状況との認識もある。しかしながら、見直しについては、強い要請と受け止め、再度検討する。

４）その他意見

（出雲市長）

・中電独自の来島ダム湖の検証組織とは別に、国、県、関係自治体や専門家も含めた神戸川全川にわたる検証組織を同時に立ち上げていくことが必要。

・今後の調整会議の期間的な目標といったものも、そろそろ示す必要があるのではないか。

〈まとめ〉

・中国電力において、今回の提案について再検討し、その結果を、次回調整会議で回答する。

・中国電力は、なるべく早く来島ダム貯水池の検討組織を立ち上げ、ダム湖の浄化対策や、検証期間の検討を行い中間報告する。（行政機関もオブザーバーとして入る）

・調整会議の今後の方向性（スケジュール感）については、中間報告も見た上で考える。

・河川環境全体の検証組織については、国・県も含め考えていく。